
台東区高齢者実態調査報告書
【概要版】

平成23年3月
台東区 福祉部

第1章 調査の概要

I 調査の目的

本調査は、第5期台東区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画のための基礎資料を得ることを目的として実施した。

II 調査の概要

■調査の種類および調査対象者

調査種別	調査対象者
①一般高齢者調査	区内在住の65歳以上の区民
②要支援・要介護認定者調査	要支援・要介護認定を受けている区民
③介護サービス事業者調査	区内に所在する介護サービス提供事業者（の全数）
④介護支援専門員調査	区内事業所に所属する介護支援専門員の全数

■調査の設計

調査種別	項目	内容
①一般高齢者調査	ア 対象者数	4,214人（前回は+256人）
	イ 抽出方法	住民基本台帳から地域包括支援センター管轄エリア毎に比例配分による無作為抽出（要支援・要介護認定者を除く）
	ウ 調査地域	区内全域
②要支援・要介護認定者調査	ア 対象者数	5,411人（前回は+259人）
	イ 抽出方法	要支援・要介護者の全数（施設サービス利用者などを除く）
	ウ 調査地域	区内全域
③介護サービス事業者調査	ア 対象者数	274事業者（前回は-7事業所）
	イ 抽出方法	区内に所在する介護サービス提供事業者（の全数）
	ウ 調査地域	区内全域
④介護支援専門員調査	ア 対象者数	173人
	イ 抽出方法	区内事業所に所属する介護支援専門員の全数
	ウ 調査地域	区内全域

■調査方法

メール便にて配付、郵送にて回収

■調査期間

平成22年11月17日～11月30日

■回収結果

	調査対象	①発送数（通）	②回収数（通）	③回収率（%）	④集計に活用した回答数
1	一般高齢者	4,214	2,970	70.5	2,937
2	要支援・要介護認定者	5,411	3,304	61.1	2,905
3	介護サービス事業者	274	175	63.9	175
4	介護支援専門員	173	116	67.1	114
	計	10,072	6,565	65.2	6,131

※ 名宛人が長期入院や施設入所などで不在である旨の回答があった場合は、「回収数」に含むが、「集計に活用した回答数」には含まれない。

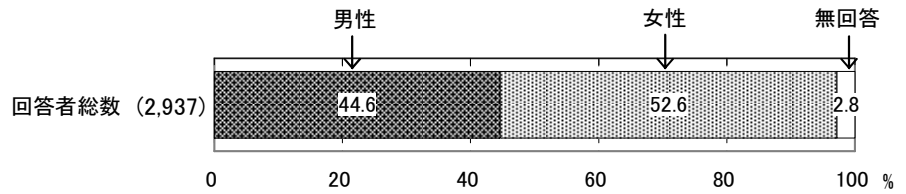
第2章 一般高齢者調査の概要

I 回答者の属性

1 回答者の性別・年齢・居住地域

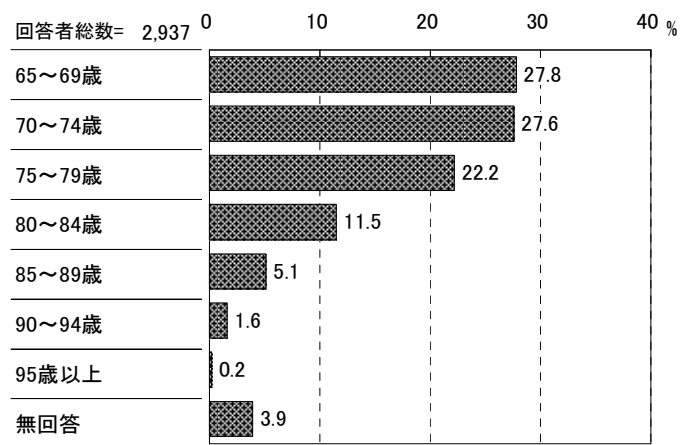
(1) 性別

「男性」が44.6%、「女性」が52.6%となっている。

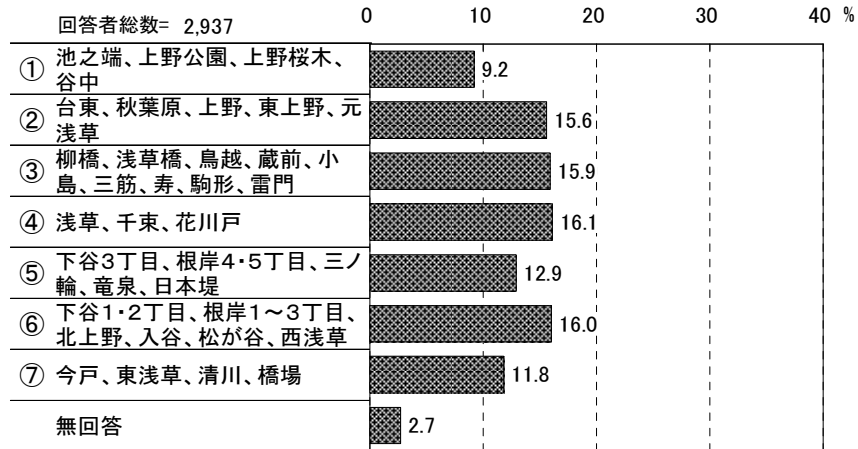


(2) 年齢

「65歳～69歳」が27.8%、「70歳～74歳」が27.6%、「75歳～79歳」が22.2%などとなっている。



(3) 居住地域



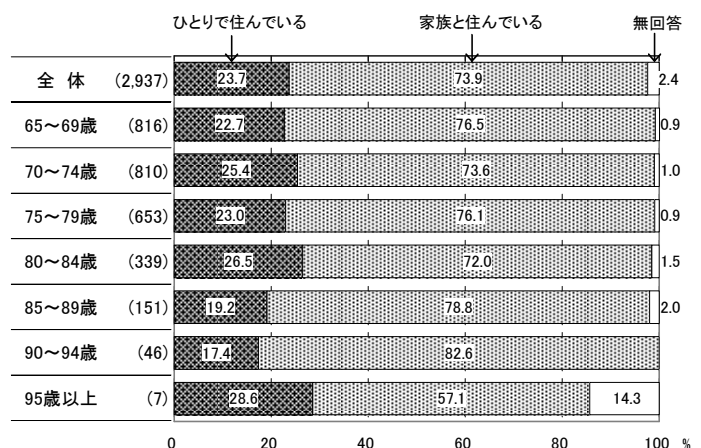
2 居住環境

全体では、「ひとりで住んでいる」が23.7%、「家族と住んでいる」が73.9%となっている。(右グラフ)

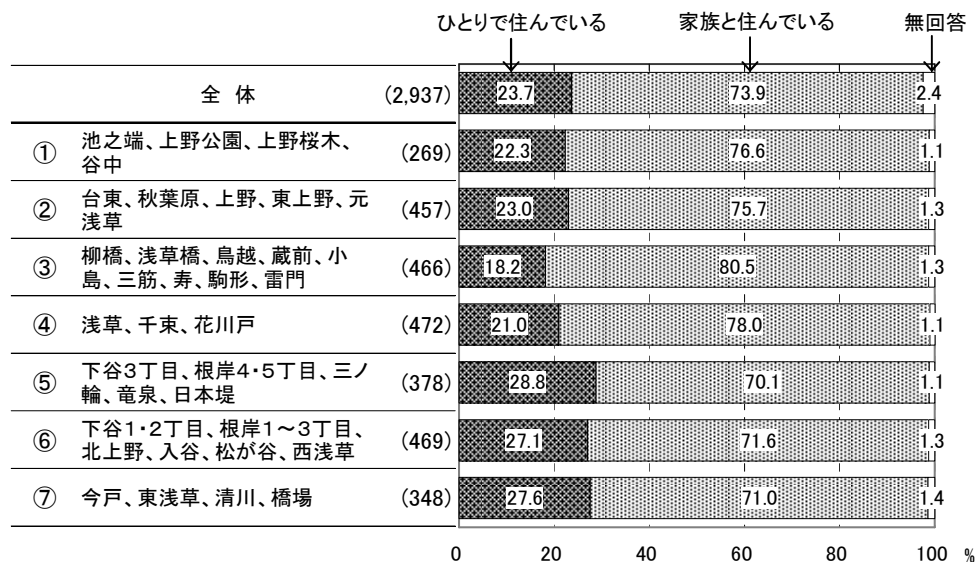
年齢区分別にみると、85歳から94歳にかけてひとり暮らしの割合が他の年齢区分と比べてやや低く2割弱となっている。(右グラフ)

居住地域別にみると、ひとり暮らしの割合が最も高い⑤の地域と最も低い③の地域とでは10ポイント以上の差がみられる。(次ページ上グラフ)

【年齢区分別／居住環境】

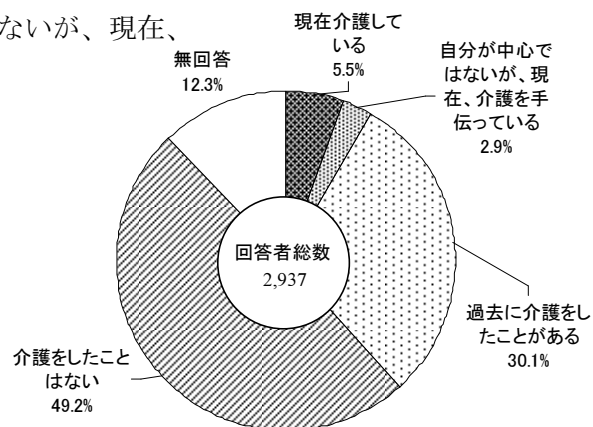


【居住地域別／居住環境】



3 家族や親族への介護の状況

「現在介護をしている」が 5.5%、「自分が中心ではないが、現在、介護を手伝っている」が 2.9%、となっている。

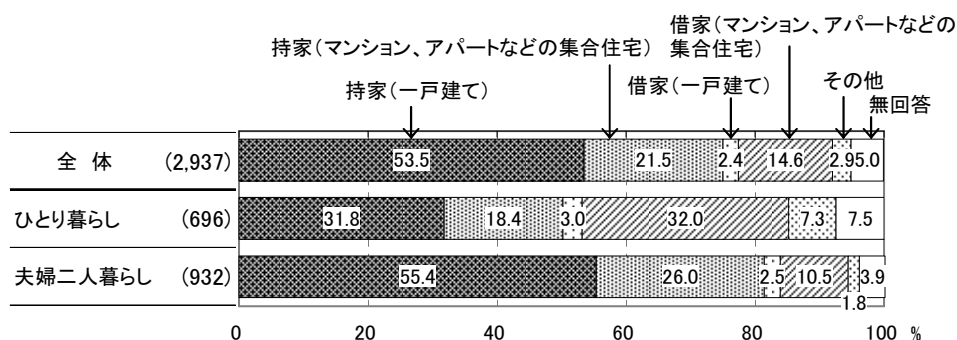


4 住まいの形態

(1) 住まいの形態

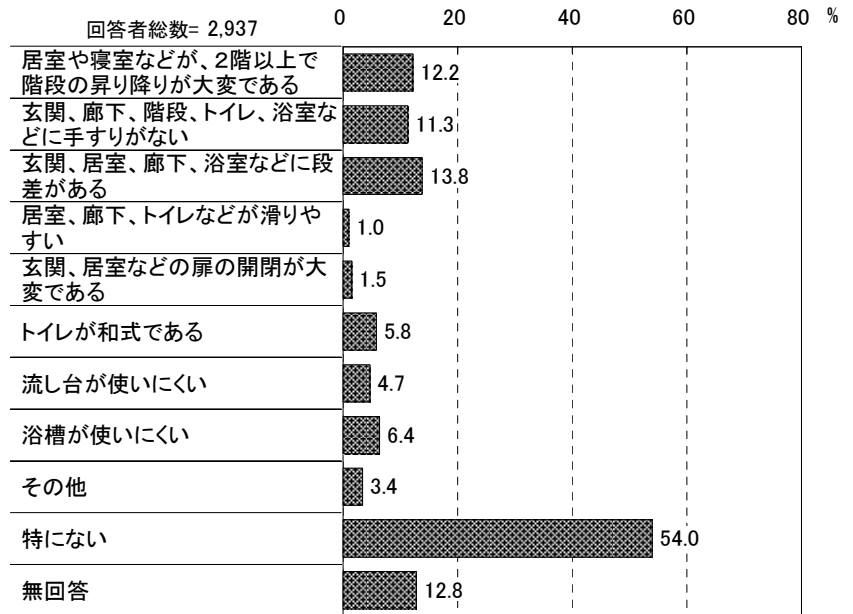
全体では、「持家（一戸建て）」が 53.5%と半数を超え、「持家（マンション、アパートなどの集合住宅）」が 21.5%、「借家（一戸建て）」が 2.4%、「借家（マンション、アパートなどの集合住宅）」が 14.6%となっている。

居住環境別にみると、“夫婦二人暮らし”では一戸建て、集合住宅にかかわらず持家の割合が8割強を占めているのに対して、“ひとり暮らし”ではほぼ5割となっている。特に「持家（一戸建て）」は差が大きく、“夫婦二人暮らし”で5割半ばを占めているのに対して、“ひとり暮らし”では3割強となっている。



(2) 住宅で困っていること

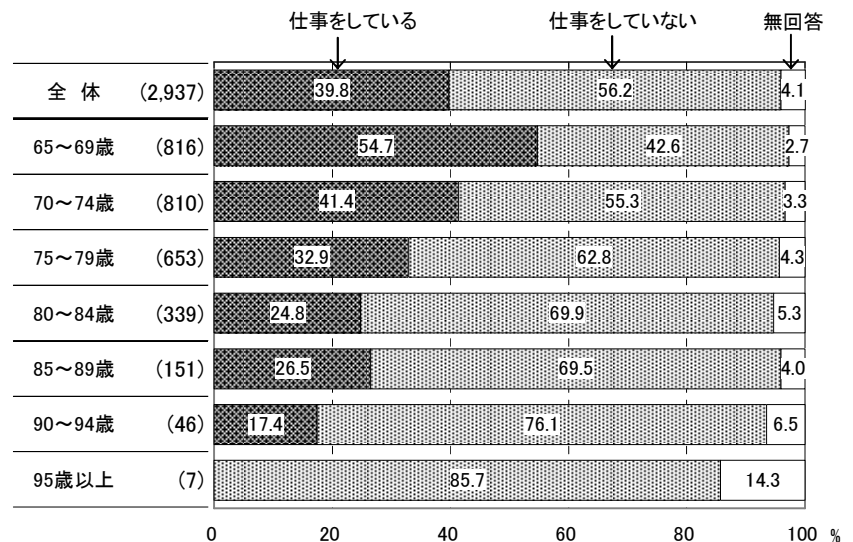
「玄関、居室、廊下、浴室などに段差がある」が13.8%、「居室や寝室などが、2階以上で階段の昇り降りが大変である」が12.2%、「玄関、廊下、階段、トイレ、浴室などに手すりがない」が11.3%などとなっている。困っていることは特になくという方が半数を超えているものの、段差を辛く感じている方や階段昇降を苦にしている方、手すりを必要としている方も1割を超えている。



5 就業状況

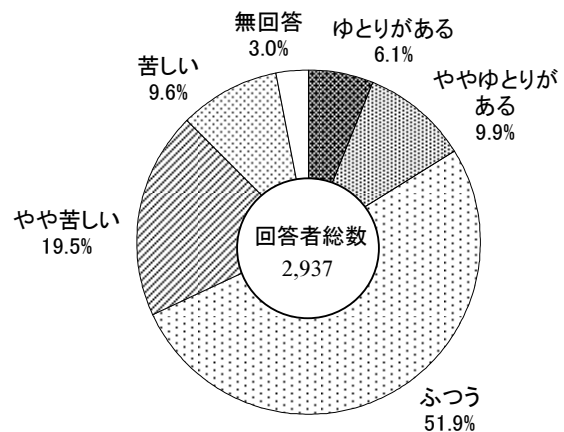
全体では、「仕事をしている」が39.8%、「仕事をしていない」が56.2%となっている。

年齢区別にみると、年齢区分が高くなるにつれて仕事をしている方の割合は低くなる傾向にある。



6 現在の暮らし向き

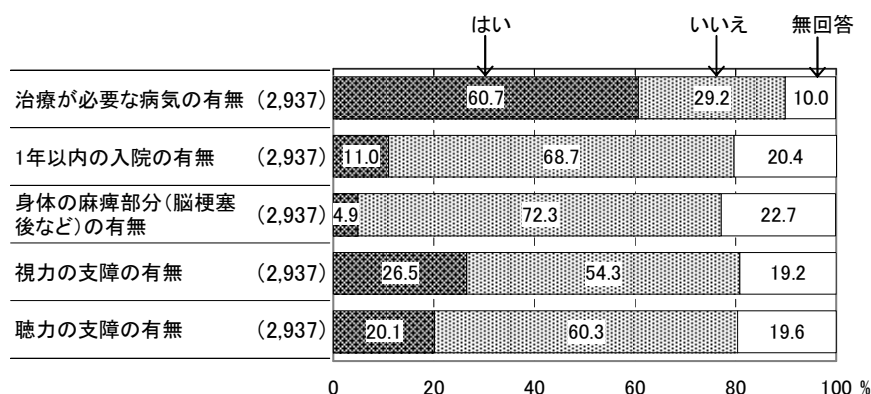
「ふつう」が51.9%と半数を超え、「ゆとりがある」が6.1%、「ややゆとりがある」が9.9%、「やや苦しい」が19.5%、「苦しい」が9.6%となっている。



II 健康や日常生活について

1 ふだんの健康状態

最近1年以内に入院をした方は1割強であるものの、治療が必要な病気のある方は6割強を占めており、脳梗塞などで身体に麻痺のある方もわずかながらいる。また、視力や聴力に支障のある方もそれぞれ2割を超えている。



2 受診状況など

通院の状況は、通院しているが7割を超えている。

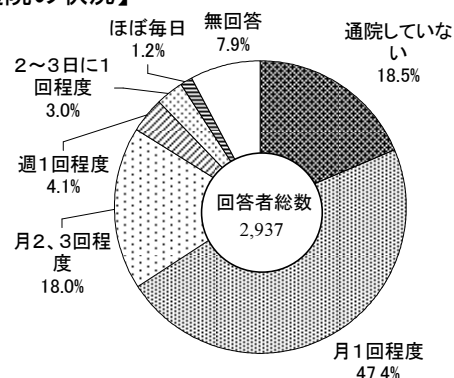
過去1年に、歯医者を受診した方は65.2%と6割半ばを占め、「通院した」は64.0%、「往診してもらった」は1.2%とわずかとなっている。

また、「かかりつけ医」が自宅近くにいる方は69.2%である。

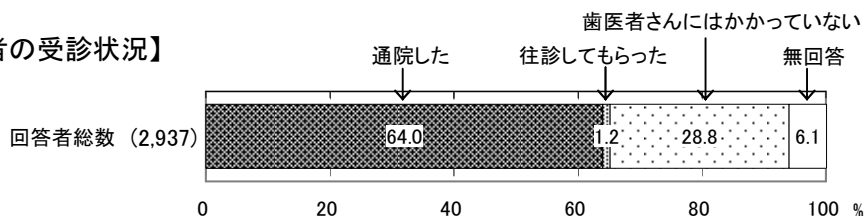
「かかりつけ歯科医」が自宅近くにいる方は74.6%である。

「かかりつけ薬局」のある方は52.6%である。

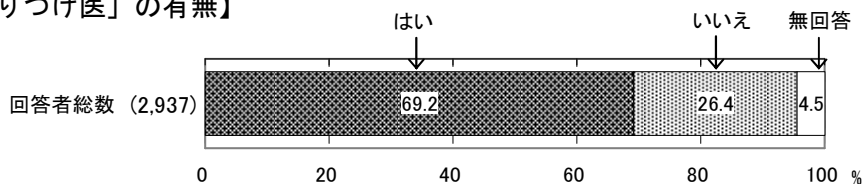
【通院の状況】



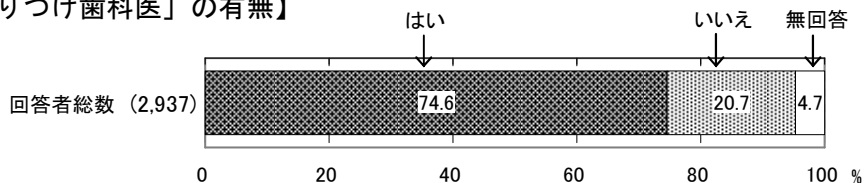
【歯医者の受診状況】



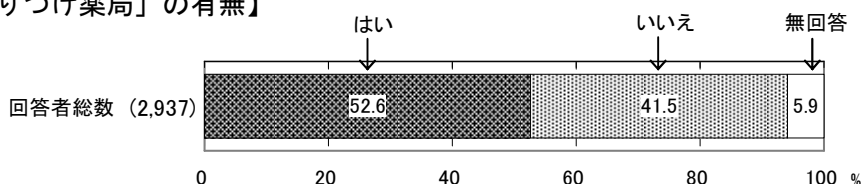
【「かかりつけ医」の有無】



【「かかりつけ歯科医」の有無】



【「かかりつけ薬局」の有無】

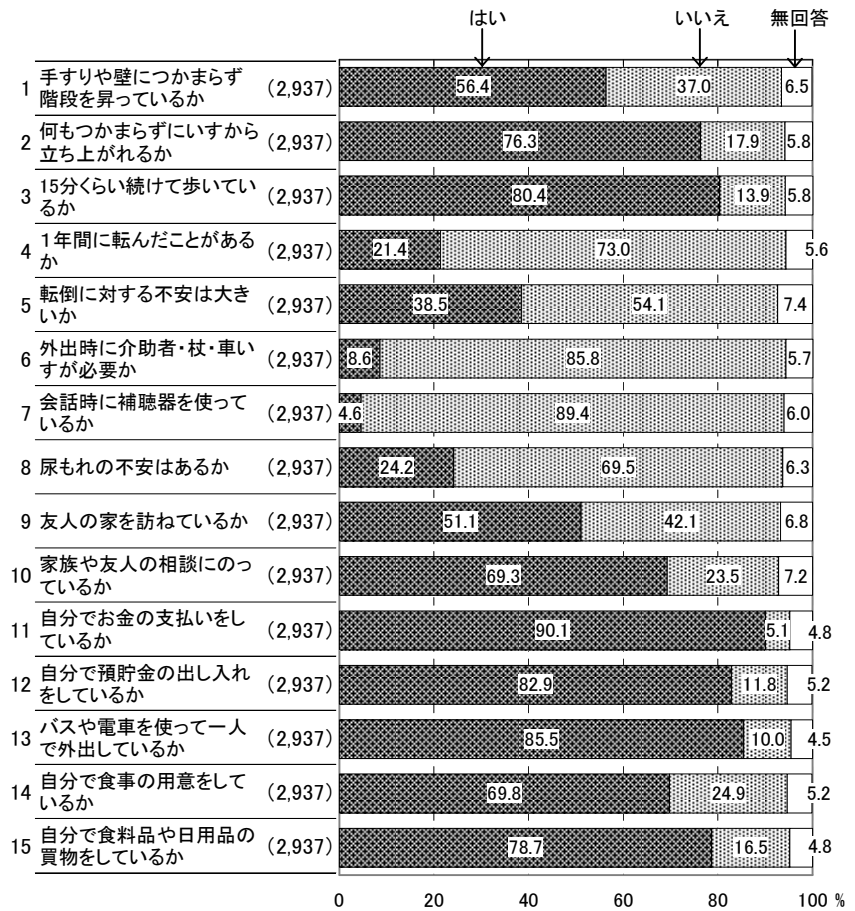


3 日常生活について

1～3の身体的機能の設問では、多くの回答者が機能の低下はないと回答している。

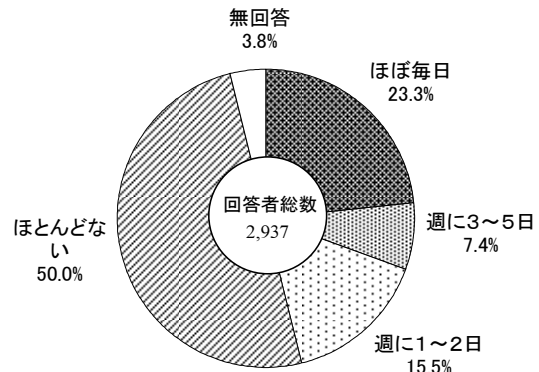
4～5の転倒についても、転倒経験がある割合は2割、転倒に対する不安がある割合が4割弱となっている。9～10のコミュニケーションの設問では、回答者の多くが行っていると回答している。

また、11～15の日常生活上の複雑な動作の設問では、回答者の多くができると回答している。



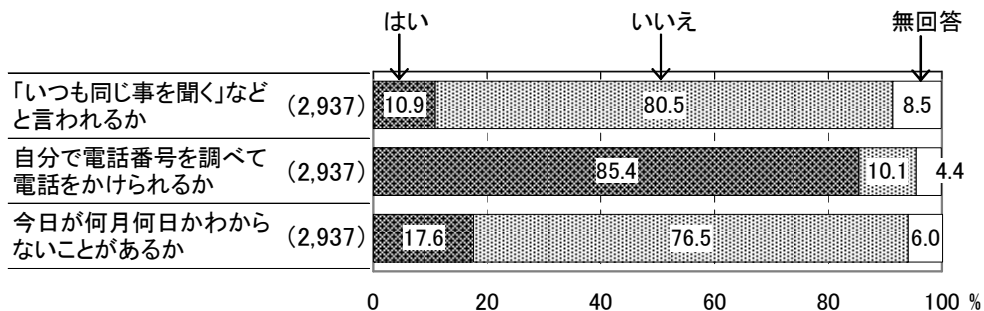
4 日中一人で過ごす頻度

50.0%の方が「ほとんどない」と回答している一方で、「ほぼ毎日」一人で過ごしている方が23.3%いる。また、「週に1～2日」は15.5%、「週に3～5日」では7.4%となっている。



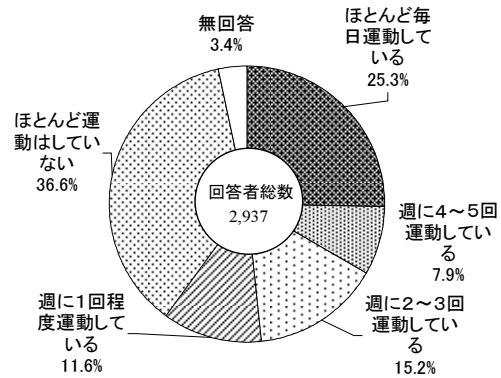
5 「もの忘れ」について

人から「いつも同じ事を聞く」などと言われるのは1割強であり、「今日が何月何日かわからないことがある」は2割弱となっている。また、「自分で電話番号を調べて電話をかけられない」はほぼ1割となっている。



6 運動について

「ほとんど運動はしていない」が 36.6%と最も多い一方で、「ほとんど毎日運動している」は 25.3%と 2 番目に多くなっている。



III 介護予防と健康の増進について

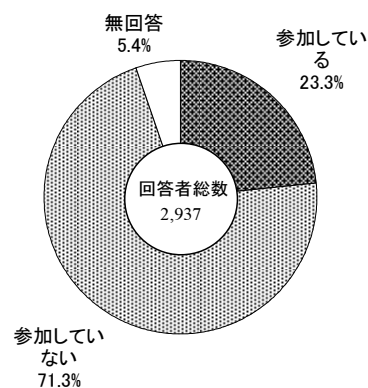
1 地域活動や講座への参加状況

地域活動や講座への参加状況は、「参加している」が 23.3%、「参加していない」が 71.3%となっている。(右グラフ)

参加している地域活動や講座は、全体では、「趣味の活動」が 41.7%と最も多く、次いで「町会・自治会などの活動」が 31.0%などとなっている。(下表)

性別にみると、「趣味の活動」では女性が男性よりも割合が高く、女性が5割弱であるのに対して、男性は3割強となっている。(下表)

【地域活動や講座への参加状況】

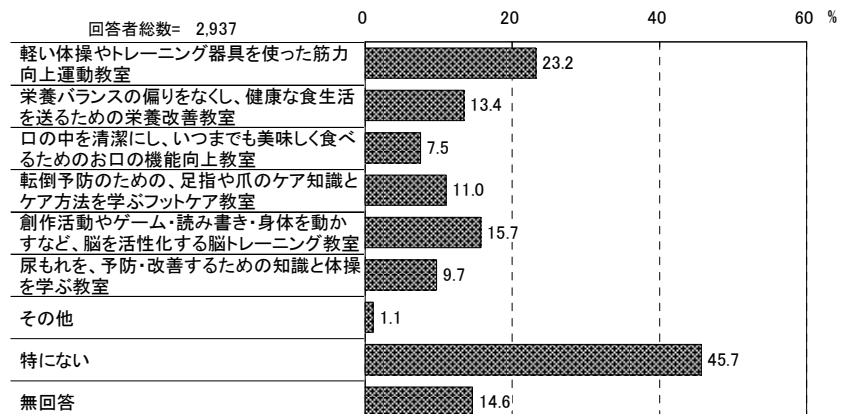


【性別／参加している地域活動や講座】

		(%)								
		趣味の活動	健康づくり・スポーツ	老人福祉センター・学習活動など	町会・自治会などの活動	老人クラブなどの活動	環境美化活動	ボランティアやNPO	その他	無回答
全体	683	41.7	28.3	9.1	31.0	14.8	3.8	5.1	4.0	13.8
男性	281	33.1	24.2	3.2	40.6	11.7	3.2	6.4	4.3	17.4
女性	391	48.6	31.7	13.3	23.8	16.4	4.1	4.3	3.8	11.3

2 参加したい介護予防教室

「軽い体操やトレーニング器具を使った筋力向上運動教室」が 23.2%、「創作活動やゲーム・読み書き・身体を動かすなど、脳を活性化させる脳トレーニング教室」が 15.7%などとなっているが、「特にない」が 45.7%と最も多くなっている。

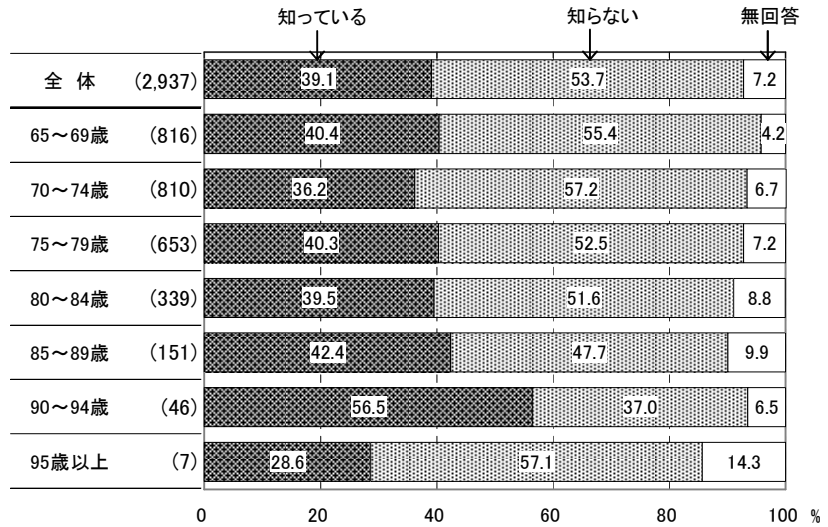


IV 介護保険制度について

1 地域包括支援センターの相談について

全体では、地域包括支援センターの相談については、「知っている」が39.1%、「知らない」が53.7%となっている。

年齢区別にみると、“90～94歳”の5割半ばは「知っている」が、他の年齢区分では「知らない」割合が高く、89歳以下で「知っている」は4割前後に止まっている。

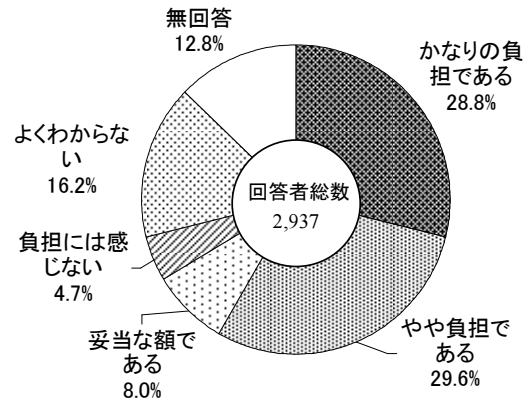


2 介護保険料額の負担感

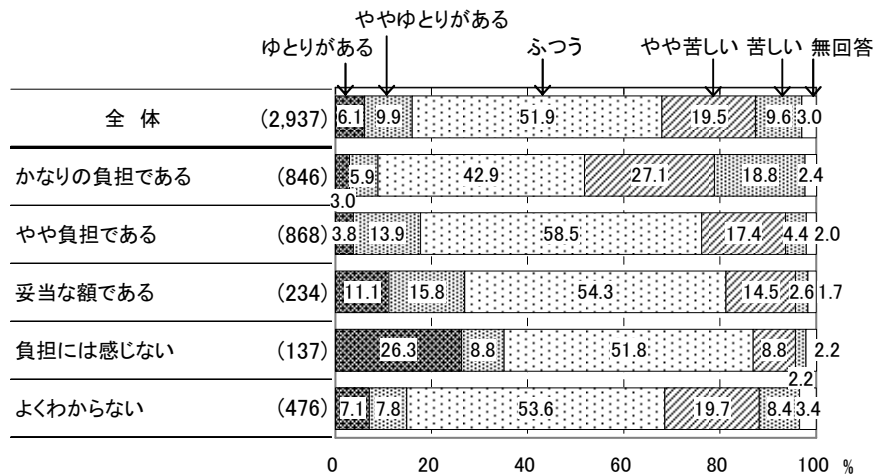
「かなりの負担である」が28.8%、「やや負担である」が29.6%、「妥当な額である」が8.0%、「負担には感じない」が4.7%となっている。(右グラフ)

現在の暮らし向きを介護保険料額の負担感別にみると、負担感が大きいほど暮らし向きが“苦しい”の割合が高く、「やや苦しい」と「苦しい」を合わせると、介護保険料額が“かなり負担である”と感じている方の4割半ばが暮らし向きも苦しいと感じている。(下グラフ)

【介護保険料額の負担感】



【介護保険料額の負担感別／現在の暮らし向き】

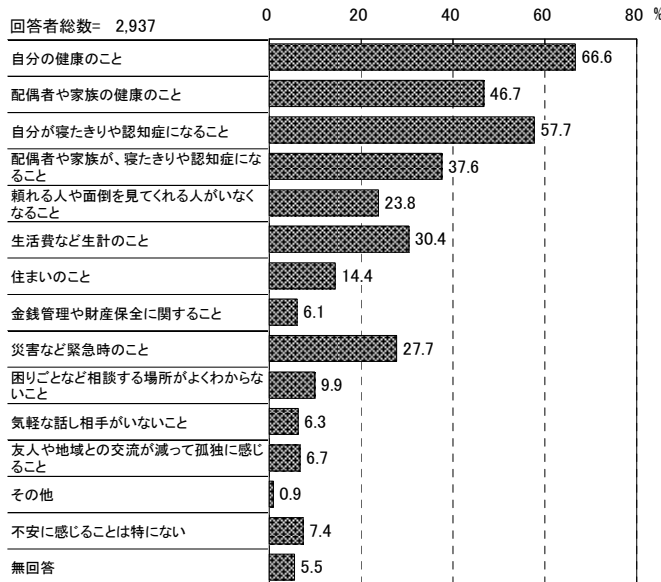


3 不安に感じていることと相談相手

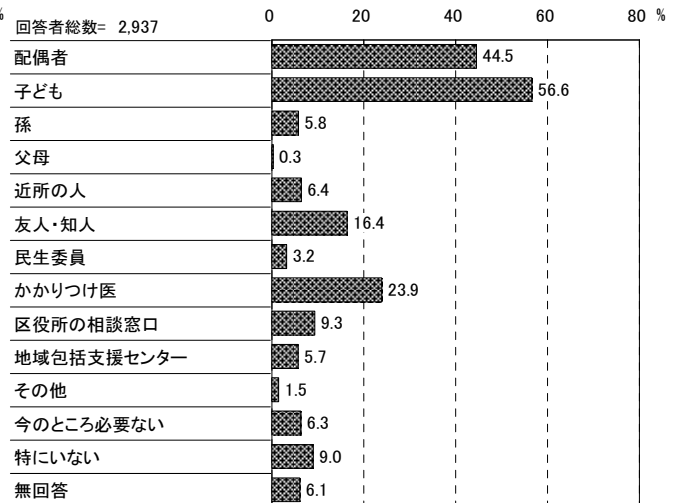
「自分の健康のこと」が66.6%と最も多く、次いで「自分が寝たきりや認知症になること」が57.7%、「配偶者や家族の健康のこと」が46.7%などとなっている。(下段左グラフ)

不安や悩みの相談相手は、「子ども」が56.6%と最も多く、次いで「配偶者」が44.5%、「かかりつけ医」が23.9%などとなっている。(下段右グラフ)

【不安に感じていること】

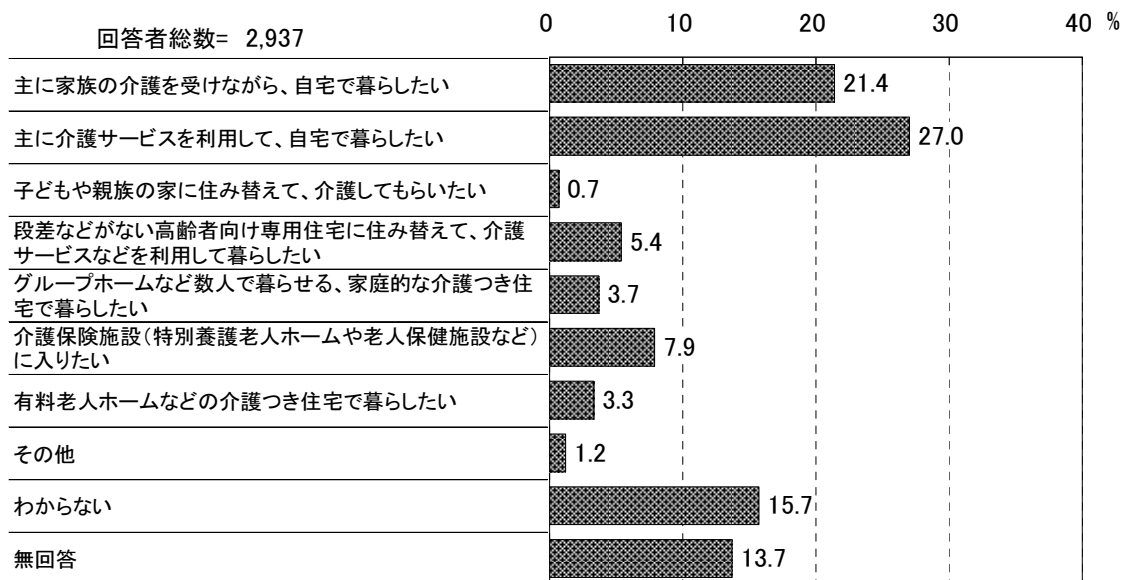


【不安や悩みの相談相手】



4 介護が必要になった場合に希望する暮らし方

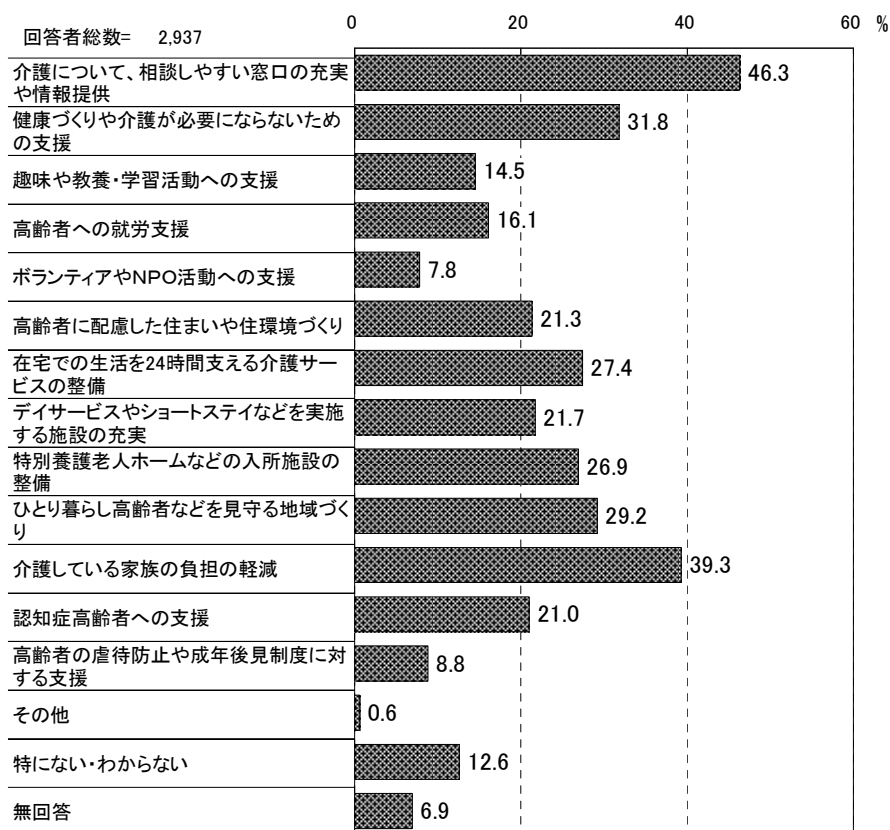
「主に介護サービスを利用して、自宅で暮らしたい」が27.0%と最も多く、次いで「主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい」が21.4%などとなっている。



V 区の保健福祉サービスについて

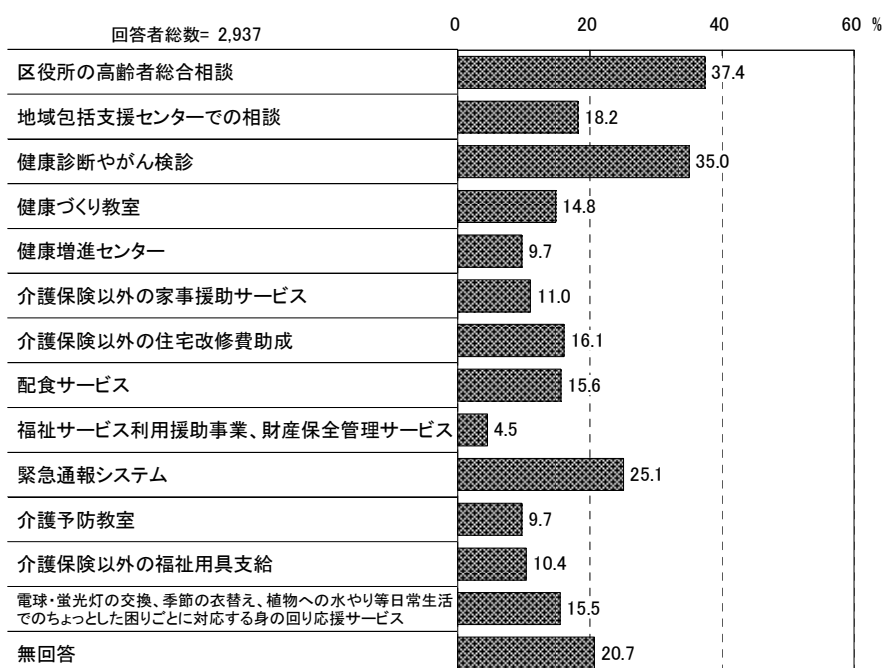
1 区が力を入れていくべき高齢者福祉施策

「介護について、相談しやすい窓口の充実や情報提供」が46.3%と最も多く、次いで「介護している家族の負担の軽減」が39.3%、「健康づくりや介護が必要にならないための支援」が31.8%などとなっている。



2 今後利用したい区の保健福祉サービス

「区役所の高齢者総合相談」が37.4%と最も多く、次いで「健康診断やがん検診」が35.0%、「緊急通報システム」が25.1%などとなっている。



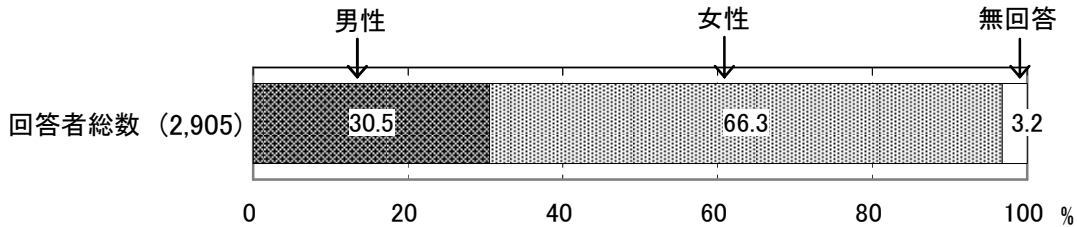
第3章 要支援・要介護認定者調査の概要

I 回答者の属性

1 回答者の性別・年齢・要介護度・居住地域

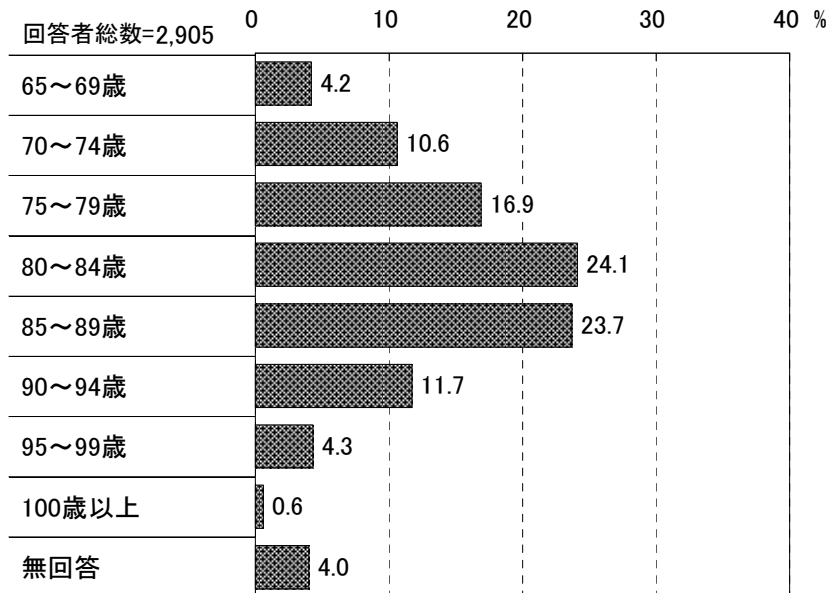
(1) 性別

「男性」が30.5%、「女性」が66.3%と女性が男性の2倍以上となっている。



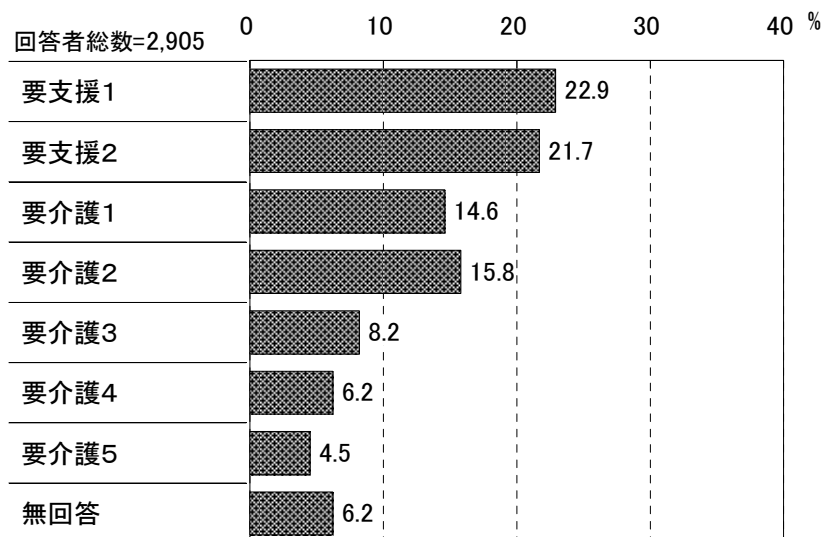
(2) 年齢

「80歳～84歳」が24.1%と最も多く、次いで「85歳～89歳」が23.7%、「75歳～79歳」が16.9%、「90歳～94歳」が11.7%などとなっており、75歳以上の後期高齢者が81.3%と8割以上を占め、65歳から74歳までの前期高齢者は14.8%となっている。

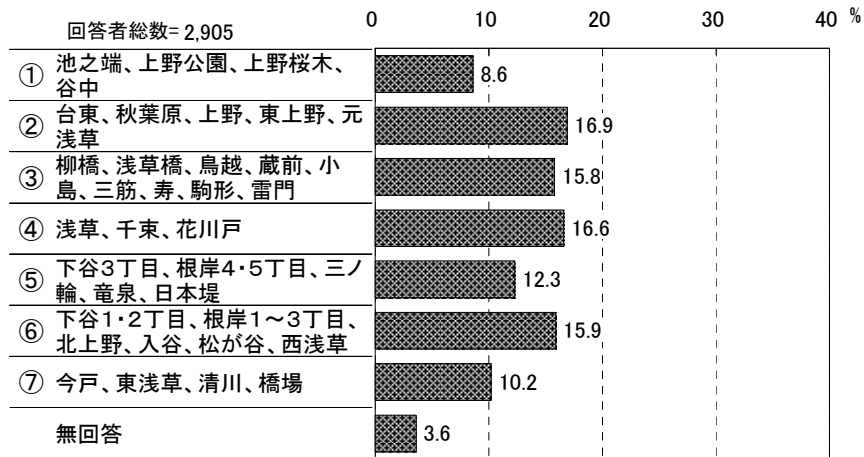


(3) 要介護度

要介護2までで75.0%と全体の3/4を占めており、「要支援1」が22.9%と最も多く、次いで「要支援2」が21.7%、「要介護2」が15.8%、「要介護1」が14.6%などとなっている。



(4) 居住地域



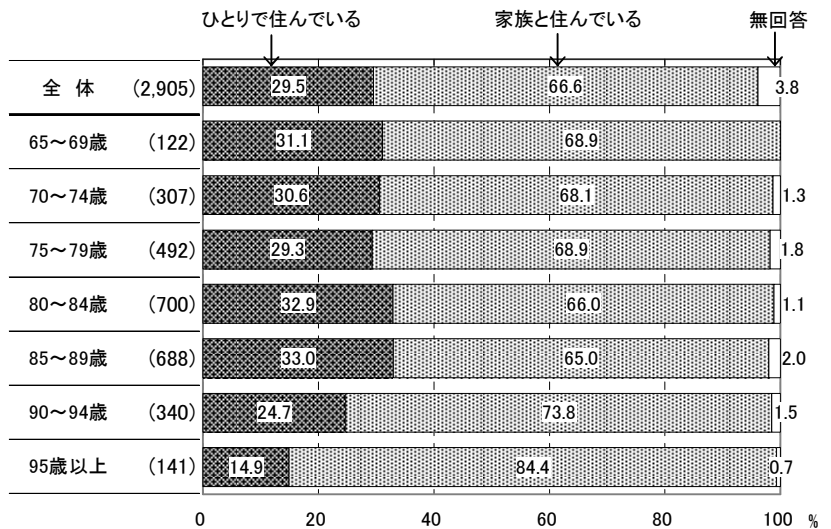
2 居住環境

全体では、「ひとりで住んでいる」が29.5%、「家族と住んでいる」が66.6%となっている。(右グラフ)

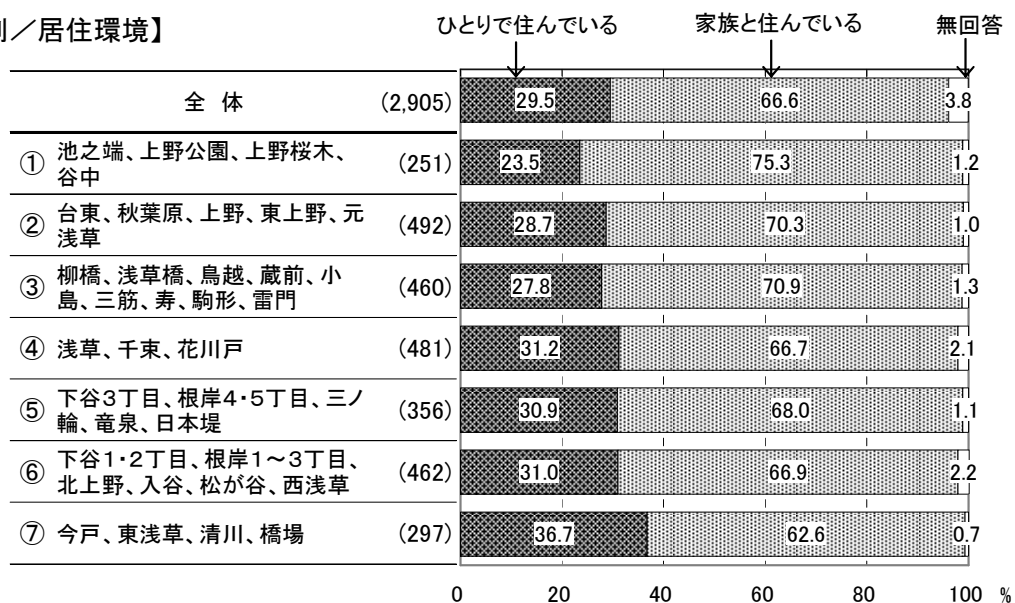
年齢区分別にみると、“95歳以上”では、「家族と住んでいる」割合が他の年齢区分と比較して高くなっている。(右グラフ)

居住地域別にみると、各地域とも全体と比較して特に顕著な差はみられないが、ひとり暮らしの割合が最も高い⑦の地域と最も低い①の地域とでは10ポイント以上の差がみられる。(下グラフ)

【年齢区分別／居住環境】

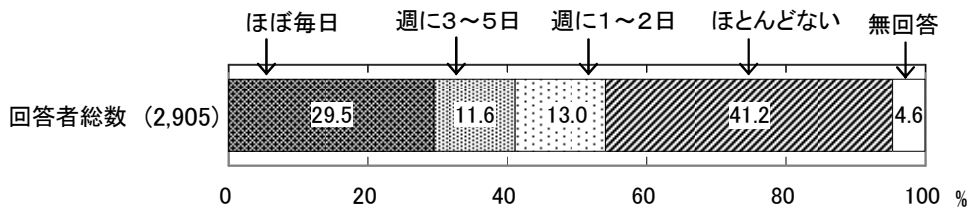


【居住地域別／居住環境】



3 日中一人で過ごす頻度

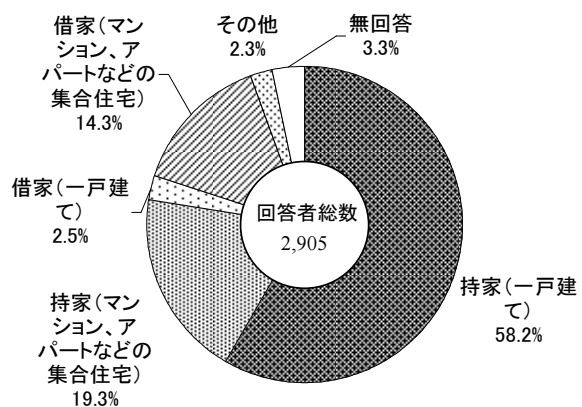
「ほとんどない」と回答している方が41.2%の一方で、「ほぼ毎日」一人で過ごしている方は29.5%となっている。



4 住まいの形態

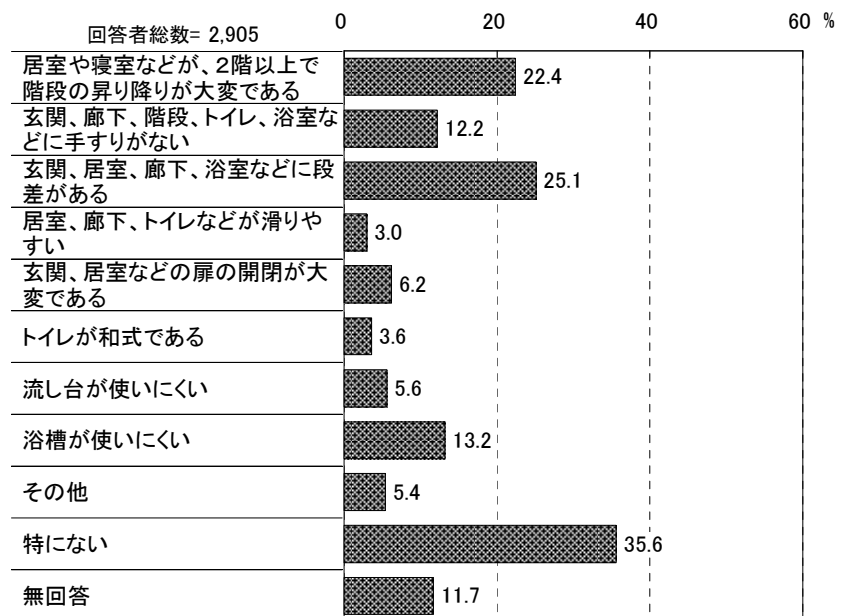
(1) 住まいの形態

「持家（一戸建て）」が58.2%と6割弱を占め、「持家（マンション、アパートなどの集合住宅）」が19.3%、「借家（一戸建て）」が2.5%、「借家（マンション、アパートなどの集合住宅）」が14.3%となっている。



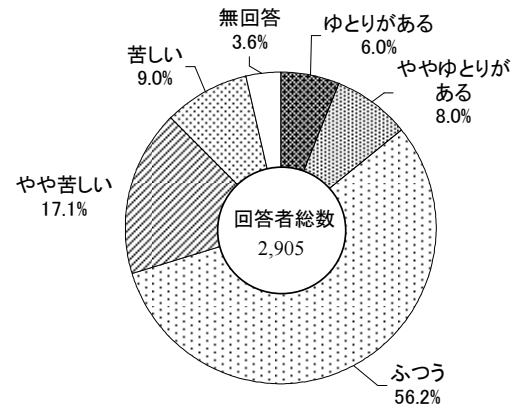
(2) 住宅で困っていること

「玄関、居室、廊下、浴室などに段差がある」が25.1%、「居室や寝室などが、2階以上で階段の昇り降りが大変である」が22.4%などとなっている。



5 現在の暮らし向き

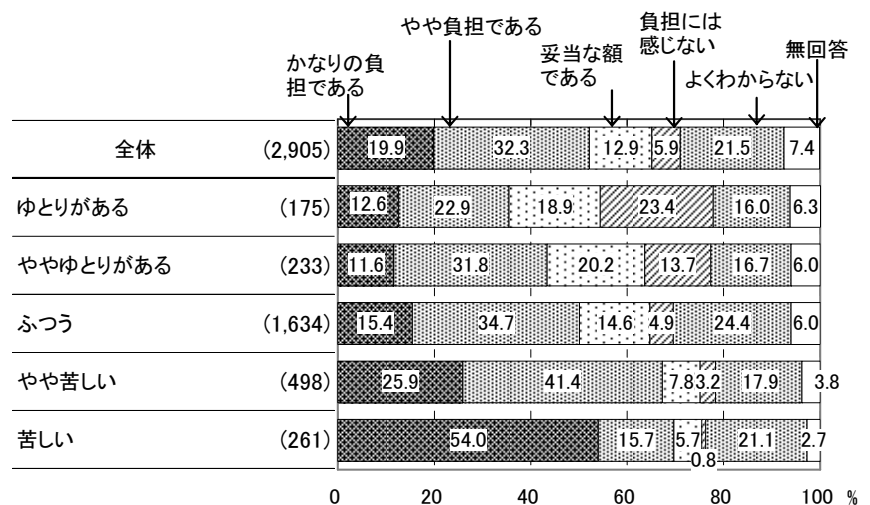
「ふつう」が56.2%と半数を超え、「ゆとりがある」が6.0%、「ややゆとりがある」が8.0%、「やや苦しい」が17.1%、「苦しい」が9.0%となっている。



6 介護保険料額の負担感

全体では、「かなりの負担である」が19.9%、「やや負担である」が32.3%、「妥当な額である」が12.9%、「負担には感じない」が5.9%となっている。

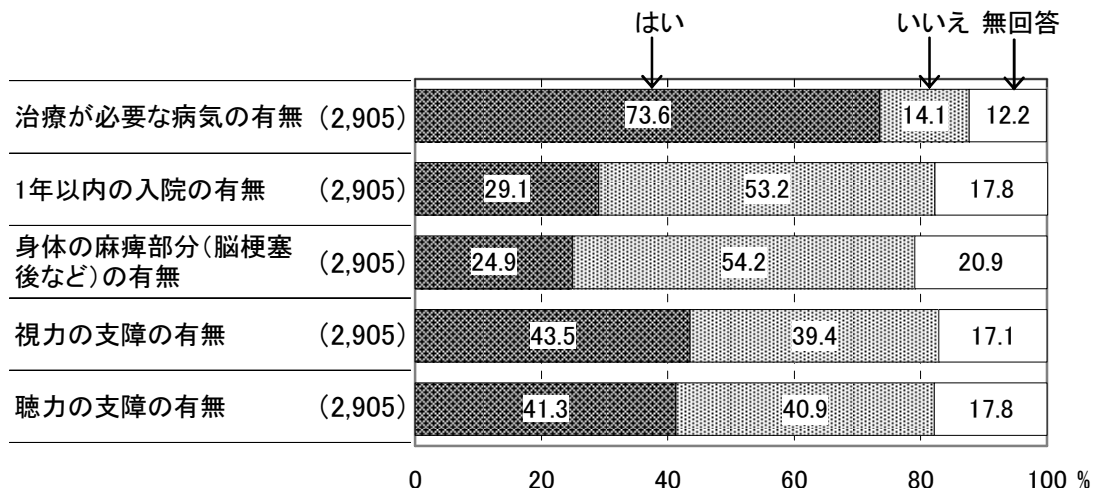
現在の暮らし向き別にみると、介護保険料額の負担感は暮らし向きが苦しくなるにつれて上昇し、「かなりの負担である」と「やや負担である」を合わせた割合は“やや苦しい”で7割弱、“苦しい”でほぼ7割となっている。



II 健康や日常生活について

1 ふだんの健康状態

最近1年以内に入院をした方は29.1%であるものの、治療が必要な病気のある方は73.6%であり、脳梗塞などで身体に麻痺がある方は24.9%となっている。また、視力や聴力に支障のある方はそれぞれ4割を超えている。



2 受診状況など

通院の状況では、全体で8割半ばの方が通院しており、「月1回程度」が全体の38.7%と4割近くを占めている。

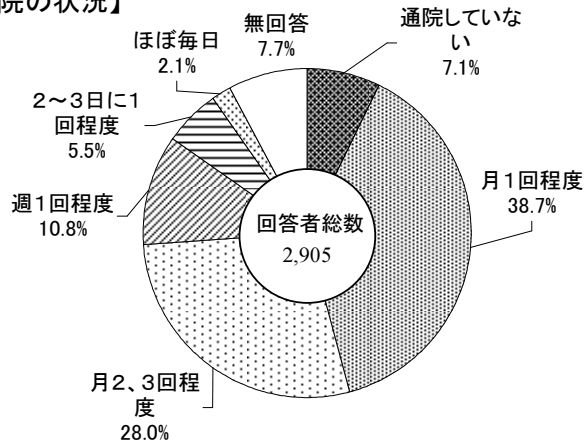
過去1年に、歯医者を受診した方は57.1%と6割近くを占め、「通院した」は50.2%、「往診してもらった」は6.9%となっている。

「かかりつけ医」が自宅近くにいる方が、79.2%である。

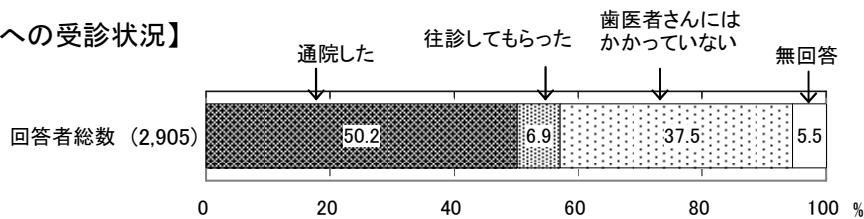
「かかりつけ歯科医」が自宅近くにいる方は、62.7%である。

「かかりつけ薬局」のある方は、66.9%である。

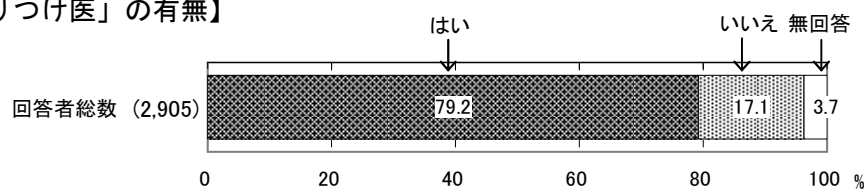
【通院の状況】



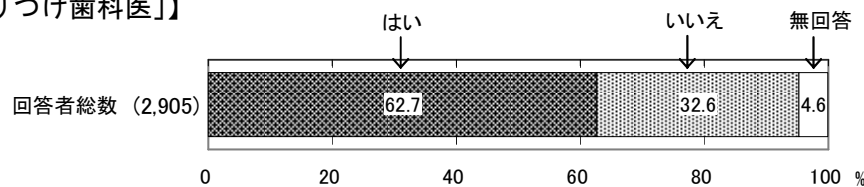
【歯医者への受診状況】



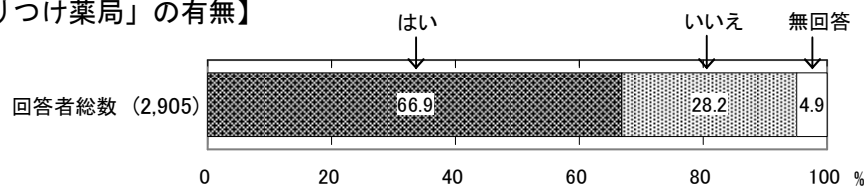
【「かかりつけ医」の有無】



【「かかりつけ歯科医」】



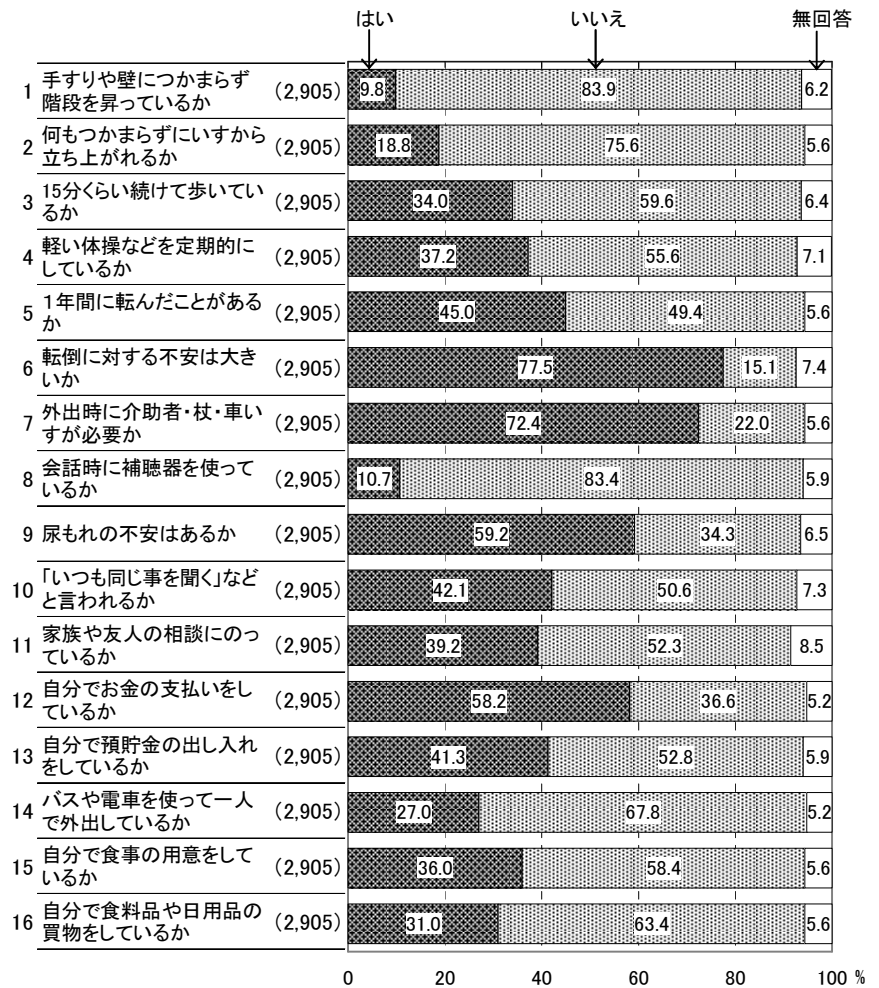
【「かかりつけ薬局」の有無】



3 日常生活について

1～7の身体的機能や転倒・外出に関する設問では、機能低下の傾向がうかがえる。

また、10以降の日常生活上の複雑な動作の設問では、10～13では「はい」と「いいえ」であまり顕著な差がみられないものの、14～16では「いいえ」が「はい」を大きく上回っている。



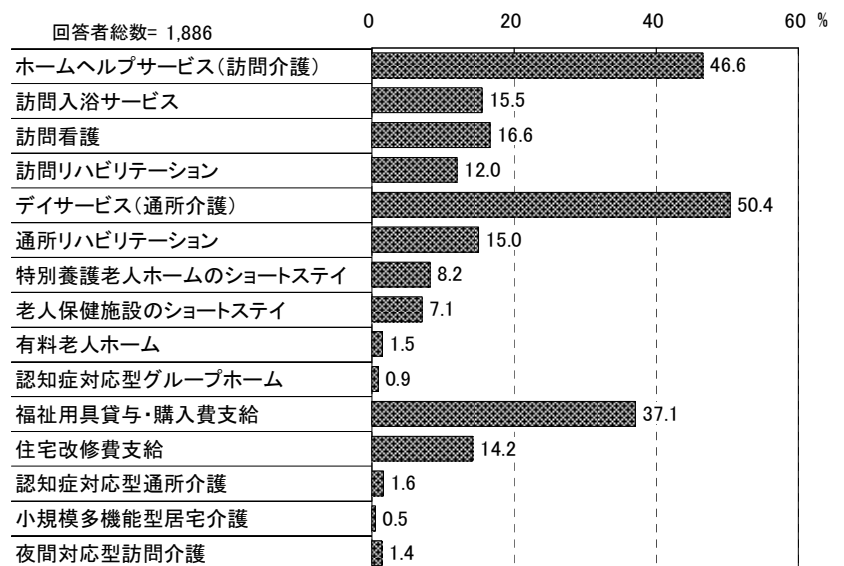
Ⅲ ご本人（あて名の方）の介護保険サービスについて

1 介護保険サービス利用の状況と希望どおりに利用できなかったサービス

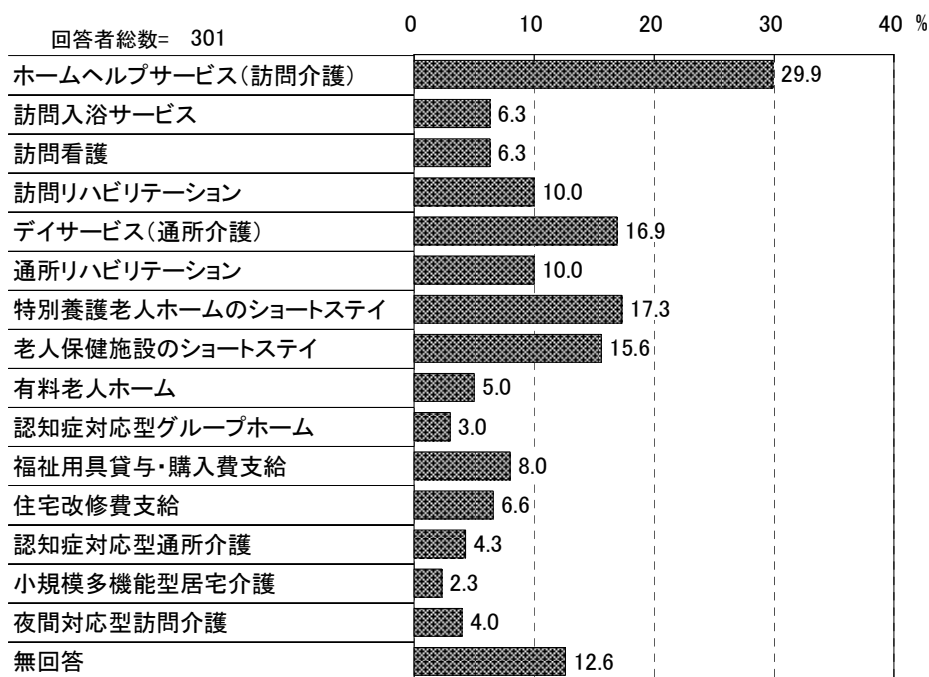
利用している介護保険サービスは、「デイサービス(通所介護)」が50.4%と最も多く、次いで、「ホームヘルプサービス(訪問介護)」が46.6%などとなっている。(右グラフ)

希望どおりに利用できなかったサービス、または不足と感じるサービスは、「ホームヘルプサービス(訪問介護)」が29.9%と最も多く、次いで「特別養護老人ホームのショートステイ」が17.3%などとなっている。(次ページ上グラフ)

【介護保険サービス利用の状況】

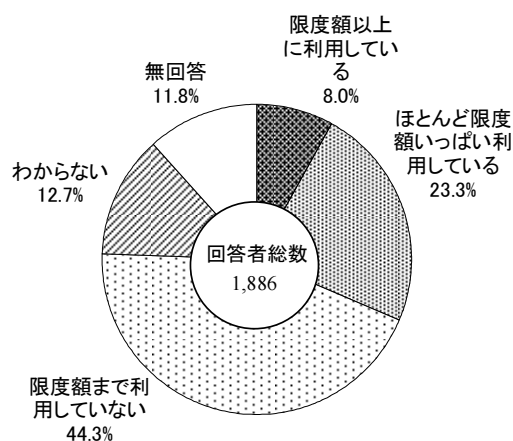


【希望どおりに利用できなかったサービス】



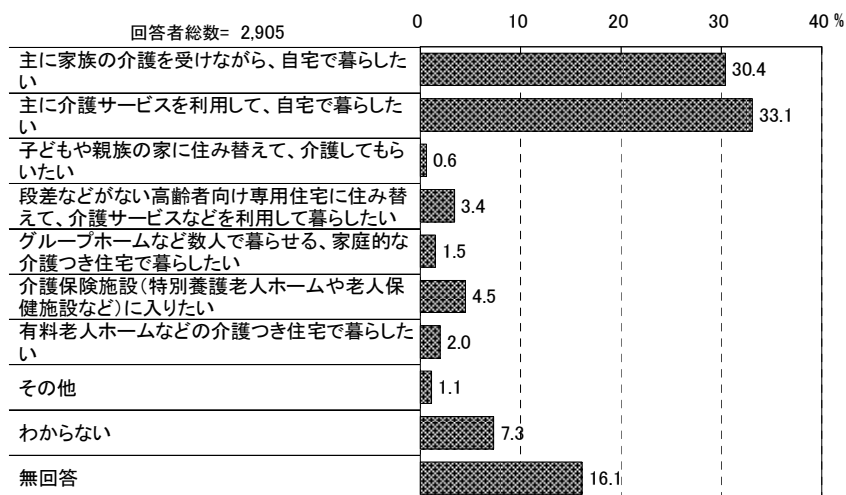
2 介護保険サービスの支給限度額に対する利用状況

「限度額まで利用していない」が44.3%と最も多くなっている。一方、「ほとんど限度額いっぱい利用している」は23.3%、「限度額以上に利用している」は8.0%である。



3 暮らし方の希望

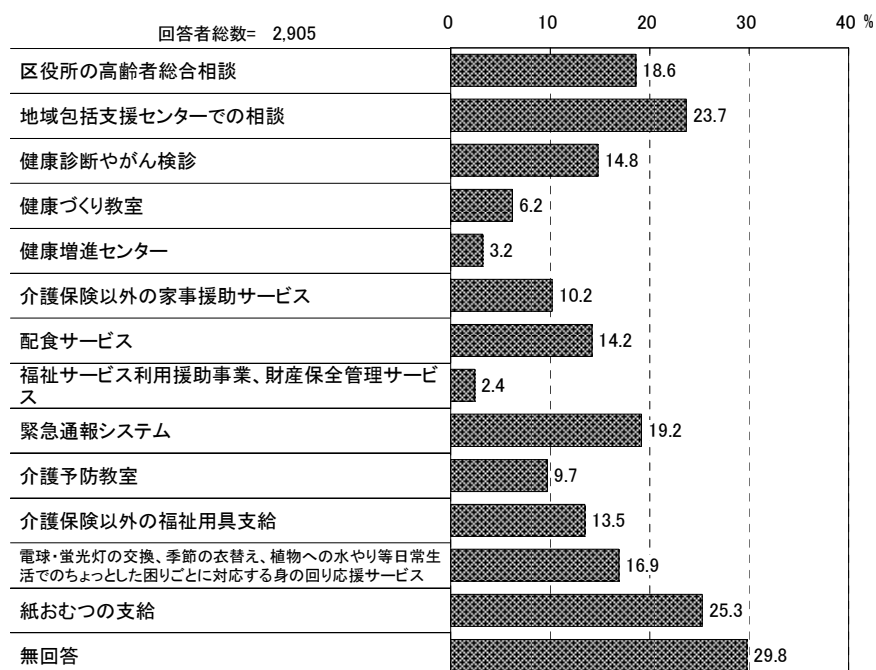
「主に介護サービスを利用して、自宅で暮らしたい」が33.1%と最も多く、次いで「主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい」が30.4%で、6割を超える方が、家族の介護や介護サービスの利用によって自宅で暮らしたいと希望している。



IV 保健福祉サービスや介護予防サービスについて

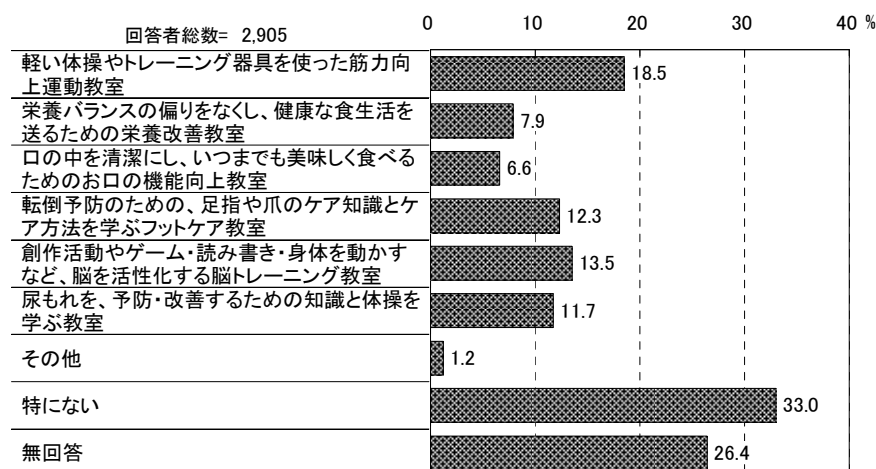
1 今後利用したい区の保健福祉サービス

「紙おむつの支給」が25.3%、「地域包括支援センターでの相談」が23.7%、「緊急通報システム」が19.2%などとなっている。



2 参加したい介護予防教室

「特にない」が33.0%と最も多く、「軽い体操やトレーニング器具を使った筋力向上運動教室」が18.5%、「創作活動やゲーム・読み書き・身体を動かすなど、脳を活性化する脳トレーニング教室」が13.5%などとなっている。

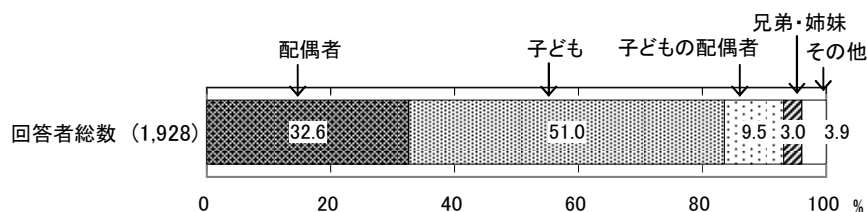


V 主な介護者（事業者以外のご家族など）について

1 主に介護している方

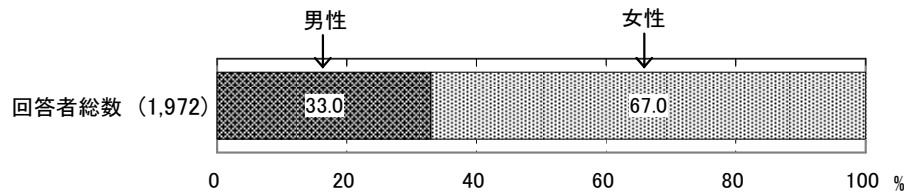
(1) 主に介護している方

「子ども」が51.0%と最も多く、次いで「配偶者」が32.6%、「子どもの配偶者」が9.5%となっている。



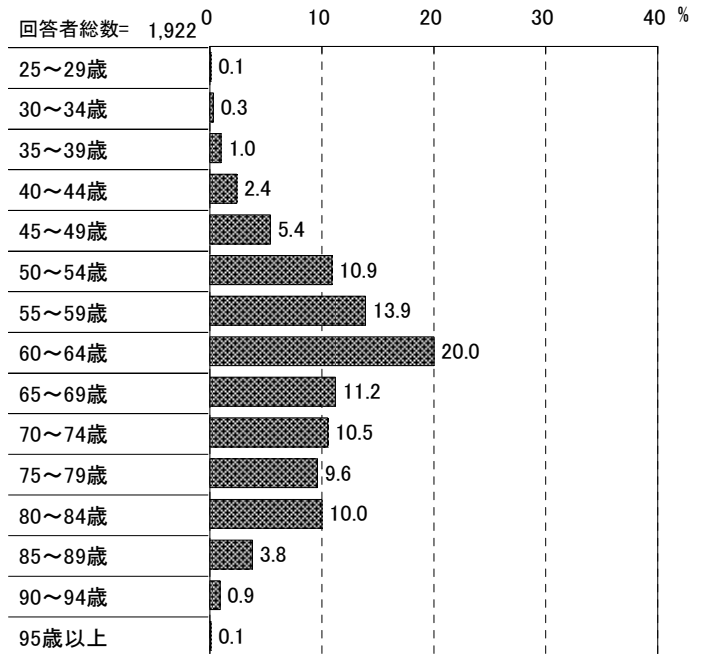
(2) 性別

「男性」が 33.0%、「女性」が 67.0%と女性が男性の 2 倍を超えている。



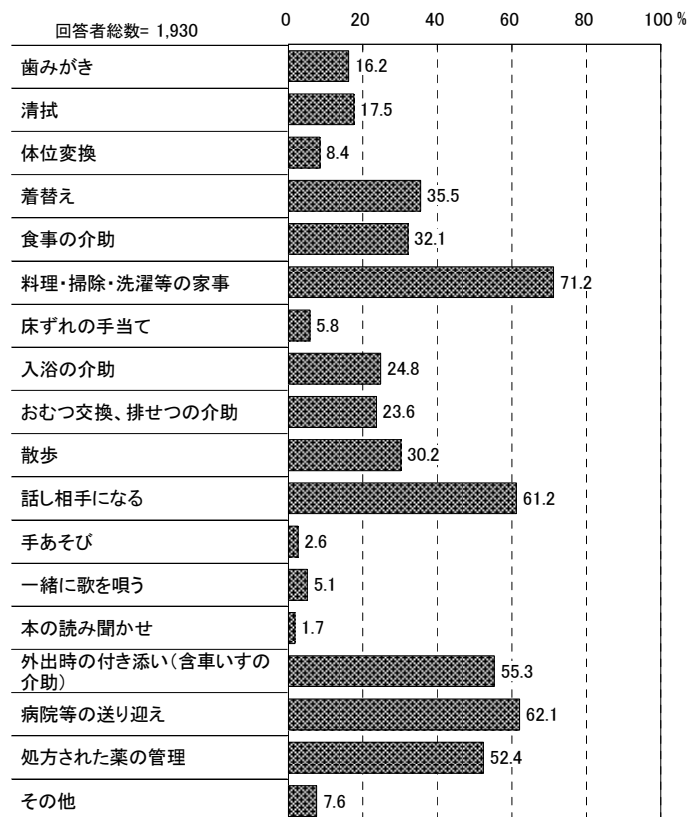
(3) 年齢

「60 歳～64 歳」が 20.0%と最も多く、次いで「55 歳～59 歳」が 13.9%、「65 歳～69 歳」が 11.2%などとなっている。65 歳以上が 46.1%である。



2 介護の内容

「料理・掃除・洗濯等の家事」が 71.2%と最も多く、次いで「病院等の送り迎え」が 62.1%、「話し相手になる」が 61.2%などとなっている。



3 介護保険サービスによる負担の軽減

全体では、「大いに負担減となっている」と「多少は負担減となっている」を合わせると、6割半ばの方が介護保険サービスによって負担が軽減されていると感じている。

現在の介護時間別にみると、“ほとんど終日”介護に携わっている方では、「あまり負担減となっていない」と「まったく負担減となっていない」を合わせた割合が2割弱となっており、他の項目に比べて割合が高くなっている。

		(%)					
		大いに負担減となっている	多少は負担減となっている	あまり負担減となっていない	まったく負担減となっていない	介護保険サービスを利用していない	わからない
全体	1,763	29.1	38.3	9.0	3.9	11.7	7.9
ほとんど終日	505	23.0	44.8	13.7	4.0	8.7	5.9
毎日半日程度	232	31.5	45.7	8.6	2.6	9.1	2.6
毎日2～3時間程度	250	39.6	40.8	3.6	3.6	10.4	2.0
必要なときに手をかす程度(毎日1時間未満)	497	24.1	31.2	7.8	4.8	19.1	12.9
週に2～3回程度	122	41.0	29.5	9.0	1.6	4.9	13.9
1か月に数回程度	91	30.8	39.6	8.8	2.2	9.9	8.8
その他	66	40.9	22.7	3.0	9.1	9.1	15.2

4 介護をしていて困っていること

「精神的な負担が大きい」が57.4%と最も多く、次いで「肉体的な疲労が大きい」が40.6%、「急な用事等があっても、家をあげられない」が33.6%などとなっている。

